



『進学事典』
オープンキャンパス
特集

『進学事典』オープンキャンパス特集を 親子で最終決定するツールとして活用

— 道立・北海道檜山北高校 —



キャリアガイダンス部部长
黒田佳宏先生(左)
キャリアガイダンス部
佐野陽子先生(右)

School Data

生徒数/267人(男子121人・女子146人)
総合学科8学級
進路状況(2010年度)／大学・短大進学25.3%、専各進学47.3%、
就職24.2%、その他3.3%
北海道久遠郡せたな町北檜山区丹羽360
TEL 0137-84-5331
URL <http://www.hiyamakita.hokkaido-c.ed.jp/>

1学年の上級学校見学会の様子



この機会が生徒の前向きな進路選択への足掛かりになっている。そのほかの主なキャリア教育プログラムは、1年生で自分史作成、ボランティア、社会認識のためのグループワーク、2年生で地域理解、インターンシップ、ディベート、ライフプランシートの作成、3年生は個別の進学準備・就職準備指導が行われている。

2002年度より総合学科高校に移行した北海道檜山北高校。09年度に総合学科推進部と進路指導部が統合され、キャリアガイダンス部が発足した。以来、総合学科の特色と進路指導という、学校経営の根幹にかかわる二本の柱を一体的に考えられるようになった。

キャリアガイダンス部ができてすぐに、生徒の発達段階に合わせて、「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」に行われているキャリア教育の学習単元を並べ替えた。「1学年は情報収集、2学年は体験学習、3学年は進路選択を主眼とした大幅な変更でした」とキャリアガイダンス部の佐野陽子先生。「これによって教員も生徒も各行事の意味や目的を納得して取り組めるようになり、学校全体の士気が高まりました」と同部長の黒田佳宏先生。

同校の生徒たちが自宅から通える範囲に大学や専門学校は1校もない。このため進学希望の場合、卒業後は必ず自宅外で暮らすことになる。この条件が不

オープンキャンパスレポート記入例

ダウンロード可

カリキュラムの紹介～どんな授業があるのか	
1年 基礎中心の総合授業、進路指導 etc	◎推薦(1) (食物)
2年 総合授業、企業訪問、総合授業等、etc	◎推薦(2) (食物)
3年 総合授業、企業訪問、総合授業等、etc	◎推薦(3) (食物)
◎主な卒業生の進路(1)～(3)は、このカリキュラム3年	◎推薦(4) (食物)
取得できる資格	◎推薦(5) (食物)
◎卒業後	◎推薦(6) (食物)
◎卒業後の進路(1)～(3)は、このカリキュラム3年	◎推薦(7) (食物)
◎推薦(8) (食物)	◎推薦(8) (食物)
◎推薦(9) (食物)	◎推薦(9) (食物)
◎推薦(10) (食物)	◎推薦(10) (食物)

同校ではレポートを書く、人の発表を聞いて書くなど、書く力を伸ばす学習が多いせいか、北海道教育委員会が行う学力等実態調査でも書く力が平均より高い。このレポートも書く量が多いが、多くの生徒が内容・分量ともに規定を満たして提出するそうだ。

利に働くことなく、むしろ飛躍の一步となるような進学準備を促すことも大きな目標である。

1・2学年のうちに上級学校に足を運び志望校選びを進める

学校見学会は1・2学年で集中的に行われる。1学年の11月には3台のバスに分かれ、全員が3校ずつ見て回る見学ツアーを実施(左上)。何を見て何を学んだかについて発表会を開き、情報を共有している。黒田先生は「土地柄、情報不足になりがちなので、まず大学や専門学校がどんなところか知ってもらいたいのがねらいです。今は国立大学もとてもいいので、説明してくれるので、これを利用しない手はありません」と言う。

2学年では5月に40以上の大学・専門学校を近隣の公共施設に招いて進学相談会を開き、1人3校を目安に担当者から話を聞く。これをもとに、夏休みには2・3校見学に出かけ、所定の用紙にレポ

ートを書く(右下)。「夏の見学の目的は自分の足を使って情報を得ること。受け身ではなく主体的に学校を調べるチャンスです。生徒も趣旨をよく理解しており、見学に行くことを面倒くさいとか無駄だという声はまったくありません」と黒田先生。

同じ志望分野でも違う学校を選んだ生徒たちに教育効果を実感

『進学事典』のオープンキャンパス特集号が配本される3学年の6月は、志望校が決定している生徒が8割を超える。ただ配るだけでは効果は薄いいため、昨年から進路相談会や三者面談の際に保護者に直接手渡している。これにより3学年の夏休みに親子で見学に行くケースが増えた。この時期、学校を見る目はシビアで真剣。志望校の最終確認や併願校比較など、目的もはっきりしているそうだ。

「進路学習の改革に着手してから、道外に進学する生徒が徐々に増えています。また昨年の卒業生のうち、9人が保育分野へ進学しましたが、全員が違う学校でした。以前は都会で一人暮らしをする不安から、みんなで寄り集まって同じ学校に行く傾向がありました。しかし今回は自分に合う学校、自分のやりたいことができる学校を一生懸命調べた結果、全員が違う道を選びました。このことに、キャリア教育の成果を実感しています」と黒田先生は語った。



じぶん未来BOOK

『じぶん未来BOOK』を読み 社会へのかかわり方を考える

— 福岡・市立 福翔高校 —



1学年主任
山田耕史先生

School Data

生徒数/950人(男子373人・女子577人)
総合学科24学級
進路状況(2010年度)/大学・短大進学51.3%、専各進学27.1%、
就職14.8%、その他6.8%
福岡県福岡市南区野多目5-31-1
TEL 092-565-1670
URL <http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/fukusho/>

第1回ワークシートの記入例

ダウンロード可

この生徒が『じぶん未来BOOK』から選んだ興味のある3つの仕事は、コンシェルジュ、ラジオミキサー、CMプランナー。この3つに共通する態度や考え方は「相手を満足させよう、よろこばせようとする仕事」と書いている。

ワークシートの質問の例 (第1回と第2回)

【第1回】

- 『じぶん未来BOOK』で読んだ職業のうち、興味をもったものを3つ選びなさい
- 3つの職業に共通する職業人として必要な態度や考え方は何ですか

この質問のねらい：社会とどうかかわるかを基準に、自分が興味のある働き方はどんなものかを考える

【第2回】

- 「R-CAP」の職業適性の中から興味のあるものを1つ選ぶ
- なぜその職業が上位にランキングされたのか考えてみよう
- その職業に就いたら自分のどんなところを生かしますか

この質問のねらい：客観的な評価による職業適性、自分の性格に合った働き方にも目を向け、多様な選択肢を視野に入れる

「職業選択を考えることは社会とのかかわり方を考えること」というメッセージを伝えるため、山田先生はワークシートの質問や構成には知恵を絞った。上記の質問のほかにもさまざまな工夫があり、生徒の反応は上々だったようだ。

総合学科高校である福岡市立福翔高校は、生徒が会社を設立して業績を競うなど、特色ある授業が多く、進路行事も充実している。しかし1学年主任の山田耕史先生は、「産業社会と人間(産社)」の授業に課題を感じていた。「2学年のコース選択に向け、将来を考える大切な時間ですが、ゴール設定があいまいで、それゆえそのゴールでいいのか疑問もありました」と語る。

事前学習、3回の授業、発表の流れで将来への考えを深める

そんなとき出会ったのが『じぶん未来BOOK』だった。「この本に登場する50人の職業人は業界別や学問分野別ではなく、人を幸せにするなど、社会へのかかわり方によって分類されています。そこに強いメッセージを感じました」と山田先生。これを生徒にも伝えたくて、以前から使っていた適職・適学診断「R-CAP」と組み合わせ、将来を考える学習を考案した。

まず2学期が始まってしまう、毎朝20分、

『じぶん未来BOOK』の気になる記事を読み、一言コメントを書いた。この事前学習で生徒は仕事の多様性に気づき、興味のある仕事もみつけていった。

その後9月末から10月中旬にかけて3回にわたる「産社」の授業で、ワークシートを使った授業を実施した。初めての試みとなる今回は、山田先生が講師役を務めて1学年全員を集めて一斉に行った。

1回目の授業のポイントは『じぶん未来BOOK』から、興味のある職業を3つ選び、3つの職業に共通する「職業人として必要な態度や考え」を書く点。生徒は仕事という技術や資格に注目してしまう。そうではなく、仕事に臨む態度や考え方を考えてほしかったという。「それが職業観育成の本質だからです。生徒も悩まず書けていました(詳細は上図)」と山田先生。

2回目のワークシートでは、「R-CAP」の性格診断と適学診断をもとに、自分の長所・進学先で学びたいことを書いた。さらに「R-CAP」の職業適性診断で上位に入った仕事を書き出し、その仕事に就いた

ら自分をどう生かせるかも考えた。これによって適性、学問、職業選択を一体に考える大切さに気づき、将来自分が社会にどうかかわっていくかについて、さらに考えを深めた。(第1回と第2回の質問例は下図)

3回目のワークシートでは3年後と10年後の人生の目標を設定し、実現のためにクリアすべき課題を書きだした。これをもとに11月には3人の代表者がライフプランを発表。「その後1学年全員がライフプランをまとめ、例年より納得度の高いコース選択ができました」と山田先生。

1学年の進路学習の目的は進路選択力をつけること

「今まで1学年の進路学習は学問や職業を知ることであり、そのゴールは、志望分野や志望職種の設定でした。でも今回、大切なのは自分がどう社会にかかわるかを考え、どんな選択基準をもって進路を選べばいいかを知ることだと気づいてくれたと思います」と山田先生。